

平成28年度第3回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

■日 時 平成28年11月8日（火） 18時15分～22時10分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数19名に対して10名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ（後藤会長）

3 まち・ひと・しごと創生総合戦略KPIの評価検証について（説明：各担当課長）

基本施策毎に担当課が説明し、質疑応答を繰り返し実施した。

【基本目標1】

（委員）NO4の「復興公営住宅完成率」について、不動産賃貸のオーナー達と情報交換をした際に、復興公営住宅の進捗と合わせて、民間の空室が出てきていて悩んでいる。今後、復興公営住宅整備戸数について詳しく精査してほしい。

（復興住宅課長補佐）復興公営住宅は、被災されて住居が無くなった方の住宅再建を第一としており、その中で現段階では4500戸必要となっている。今後も精査していく。

（委員）入居されてからのトラブルについては何かあるか。

（復興住宅課長補佐）入居されてからのトラブル、住民間のトラブルは聞いていない。施工の不具合（ネジがゆるんでいる等）についての声は若干あるが、その都度対応している。

（委員）生鮮マーケットに大型バスが入れるスペースはあるのか。

（商工課長）街中で大きな駐車場は難しいが、観光交流施設の中で立体駐車場を作ろうとしている。その前に大型駐車場として4台程度確保している。繁忙期には、臨時駐車場などを確保するなど民間の事業者とも相談を行っていく。

（委員）交流人口、観光がからむと市街地に具体的な事業がやりやすいのかなと感じる。市街地の具体的な内容と比べて半島部はぼんやりした感じで、ますます地域の差を感じる。今からDMO法人の立上げを進め、半島部でも観光を進める中で、低平地利用が全く進んでおらず、土地が空いているように感じる。それに対して何か対策はあるのか。

（観光課）半島部である雄勝、北上、牡鹿3地区については現在、復旧整備を計画しており、北上地区については29年度から施設の供用開始を予定している。また、雄勝、牡鹿については29年度から実施設計、基本設計を着手し、その後、施設建設に着手していくこととしている。なお、半島部のイベント関係については、今現在、震災前のイベントを抑え、若干小規模なものになっている。拠点整備が完了したら震災前の規模によるイベント開催など施設を利用したにぎわいの創出を考えている。DMOについては、既存の観光事業者以外の方々を巻き込んだ新たな観光のシステム作りを行いたく、各委員の意見を聞きながら事業の計画を進めているところである。

（復興政策課長）北上地区のそれ以外の整備では、環境省のフィールドミュージアムを予定しており、来年から整備が始まる。また、白浜海岸、海水浴場も復旧することで整備し

ている。

(委員) ソフト面がすごくやりにくく、建物設備がどんどん出来ていっても、そもそも分母(人)がいない。イベントをやってくれと言われても、そもそも分母がいない所で費用(売上げ)が出ないイベントを仕掛けるのは大変であり、事業化してもらうなど、もっとたくさんの人が関わってもらうことはできないものか。

(復興政策課長) 北上総合支所でも、まちづくり委員会等で意見を聞いており、総合支所とも十分相談してどういう対応できるか検討していきたい。

(委員) 高い堤防になってしまっていて波が見えないと、どれくらい引いているか分からない。反対に波が見えていたほうが安全という話をよく聞く。釜石の方では、高い堤防を作ったが、結局、波がきて全部持っていかれたという話もある。

(基盤整備課長) 防災緑地については、1000年に1度の津波を想定し、市街地を守る高さや位置を設定している。防災の考え方として、津波が来たらまず避難というのが原則である。L1防潮堤については7.2m、L2の多重防御施設については、最低、最小限想定される今次津波を想定して防げる高さで選定している施設である。

(会長) 意見はいろいろとある。波が見えたらという意見もあるが、災害(津波)は昼間にだけ発生するとは限らない。ここは、基本的には、市の計画を尊重しつつ、進捗について見守っていきたい。

(委員) 防潮堤は絶対必要だと思うし、また、避難路が整備してあればなおよい。住民にも分かりやすいものとしてほしい。

(防災推進課長補佐) 避難経路を誰でもわかるように表示したい。防災サイン(サイン計画)では、避難場所はどこか、何メートル先に避難場所がありますという表示を分かりやすく整備するよう計画している。

(会長) 可能であれば、多言語表示でお願いしたい。

(委員) 夜の災害(津波)では、インフラも全部止まると思うので、ソーラー等でLEDをつけるなど、避難路がわかるようにしてほしい。

(防災推進課) 防災サイン計画では、夜間の津波避難の対策についても検討している。

(委員) NO17の空き家について、「有効活用」と「除却」の側面があり、実態調査をしたらかなりの数になると思う。人口が減り、少子化になるにつれて、すごく重要な課題になることから、ぜひ調査をしていただいて、これからどう対策していくかという政策を検討できないか。移住者の受け入れのための半島部の古民家の活用であるとか、都会では流行っている話である。

(復興政策課長) 空き家の調査については、所有者の意向によるところが大きい。意向も踏まえた有効的な活用をしていきたい。

(委員) NO15の津波避難タワーだが、スロープの設置予定はあるのか。また、今後設置する際も、形状は決まっているものなのか。

(防災推進課) 津波避難タワーは4基(大宮町、魚町1丁目、3丁目、西浜町)完成しており、形状は全て同じく階段方式になっている。現在、大街道地区に消防団のポンプ置場

を建設しており、ここはスロープをつける計画である。

【基本目標2】

(委員) NO21の創業・第二創業件数KPIについて、平成31年までの5年で45件に対して平成27年度実績が38件でよいか。

(産業推進課長) 当初の目標では、石巻市の創業支援事業計画の中で創業支援補助金という独自の施策として補助金を出しており、これに対する創業対象件数をKPIとしていたが、市の創業補助金以外でも、国や県の補助金を活用して創業している方もいることから、KPIを95件に変更したいと考えている。

(委員) 本計画では、基本目標として「人材を育成し安定した雇用を創出させる」となっているが、雇用の人数はどのくらい増えたのか。

(産業推進課長) 27年度と28年度途中(現段階)では合計187人である。

(委員) 進捗は非常によいと思う。創業が今後続けていけるかフォローしていく必要があることから、創業の件数だけでなく、人数をどのくらいまで増やすか目標値として定めてはどうか。

(産業推進課) この計画では、基本目標の数値目標として、新規雇用創出数600名という設定をしている。

(副会長) NO18の包括ケアについて、基本的に石巻に人(材)がいないから来ていただく人を増やすとか、石巻で働く人を増やすということであれば、他の地域の方が入ってくるという流れにはならないのではないか。

(包括ケア推進室) この制度は石巻市への定住人口の増加が一つの目標であり、他市町村からの通勤ではなく、石巻で働くために本市に住所を移して働く方を対象としている。県内のみならず、広く全国に助成金の制度を周知し、石巻で働きたいと思う若者が来てくれることを期待し実施しているところである。

(委員) そういう考えがあるのならば進学の間で伝えるべきである。市内の高校であれば看護師、保健師等の社会福祉系の学校へ進みたいという生徒に進学の間で伝え、地元に戻って来ることを考えながら学校で勉強してもらおうといったことが周知されていかないと、いつまでもこの問題は解決されないと思う。ハローワークで説明会を行っても、一人しか来なかったという話も聞く。

(包括ケア推進室) 周知というところでは現在不十分であると認識している。この助成は、継続的に行うものではなく、平成30年度までの状況をみて継続するか判断することとしている。また、人材不足という現状から、今年度、石巻市地域包括ケア推進協議会で、市内の小中高校に医療、介護の仕事の魅力を伝え、進路選択の一つとして考えてもらうような授業をやってはどうかという提案を受けたことから、現在、桜坂高等学校と協議をしている。

(委員) NO19の医療福祉セミナーについて、セミナーをやること自体が目的ではなくセミナーを通じてこういう職業に就く人を誘致したいということではよいか。

(包括ケア推進室) 中長期的にはなるが、セミナーに参加して石巻の現状をまず知ってい

ただき、卒業後、石巻で働いてみたいという興味をもっていただくことを期待している。

(委員) 昨年19名参加して、その方々とその後の交流はないのか。

(包括ケア推進室) 希望される方に、セミナー専用のメーリングリストを作り、定期的に情報を発信したり、ご意見をいただいたりしており、実際に参加者の中で石巻に就業された方もいる。

(委員) NO25の新規就農労働者数について、石巻でも任意団体や法人化が増えてきているが若者が少ない。仙台方面であるとか、小牛田農林とか農業関係の高校等にPRしてほしい。担い手として考えたとき、作物や職種に関わらず、米作でも麦作でも一つの仲間であり、自分たちで地域の農業を盛り上げていくという気持ちでやっている者がたくさんいる。

(農林課長) この事業を起爆剤に空き家を活用し、シェアハウスのようなものを作り、農業全般の就農希望者を募り、研修を行いながら法人等へ斡旋しながら就農していただくように導いていきたい。

(副会長) 「山形ガールズ農場」という若い女性を中心にあって農業を格好良くやろうというグループはご存知か。20代から30代の女性が、少量多品種で全国展開しており、石巻からも携わっている方がいる。おもしろい考えで新しい形だと思われる。

(農林課長) 国でも女性の活躍を期待しているので、本市でもそういう女性がいれば就農を呼びかけたい。

(会長) 石巻での取組みについて、ホームページへの掲載はどうなっているか。

(農林課長) 補助金の紹介とか情報提供はしているが、不足している。

(後藤会長) 情報が出しやすいように一工夫してもらえるようお願いしたい。

(会長) DMO設立に関わる者として、DMOが動き出すのは来年度であることから、本年度できる事業を踏まえて、この書き方だとDMO頼りになっているので、市の政策の中でそれぞれの項目に積極的に取り組んでいくようお願いしたい。

(観光課長補佐) 了解した。

【基本目標3】

(会長) NO39の住民主体による訪問型・通所型サービスの実施団体数について、障がい者が対象とならない理由を教えてください。

(介護保険課) 介護保険の範囲(国の制度)の中での運用となることから補助対象外となる。

(委員) NO40の都市公園愛護会結成数について、荒れている公園、あまり整備されていない公園が多く、砂場に釘があったりして危ない。そういう公園にどう手をかけてよいか分からないという声もある。

(都市計画課) 震災後、整備されていない公園もある。危険な箇所があるときは、市役所に連絡をいただければ、その都度対応していきたい。

(委員) 楽しい公園であれば遠くでもお金かかっても遊びに行くので、公園に力を入れていただけるとありがたい。

(都市計画課) 今後整備する際には、ご意見を参考にさせていただきたい。

(委員) 外国で公園造りに力を入れて子供が増えていったところがあるらしく、可能性を秘めた場所である。

(副会長) 移住コンシェルジュとは、どのような立場の人がどういう形で何人ぐらいいるのか。

(地域振興課長) 石巻への移住希望者の募集受付、相談、助言、お試し居住の企画運営、空き家等の管理を総合的に扱う専門職を考えている。委託をしており、専門職2名を配置し石巻への移住希望者の窓口になってもらっている。

(副会長) 専門職とは、移住に関するノウハウを持っている方と考えてよいか。

(地域振興課長) 専念してやっていただく方である。

(委員) 移住コンシェルジュはどこにいるのか。

(地域振興課長) 移住施策を委託している中の事業の一つとして、移住コンシェルジュを設置することとしている。

(会長) もう活動しているのか。

(地域振興課長) 2名のうち1名は既に開始しているが、認知度はまだ低いことから、11月に東京都内で移住者懇談会の開催を予定している。

(委員) NO48の市内高校生が本市に住み続けたいと思う割合について、立町の「らいつ」に高校生も来ていると思うので、そちらでアンケートをとってはどうか。

(学校教育課長補佐) 検討したいと思う。

(会長) 県立高校への働きかけは難しいか。

(学校教育課長補佐) アンケートを取ることは不可能ではないが、アンケートを取った後に改善の働きかけをしてこそ効果があるものであり、市では県立校への改善の働きかけをすることは難しいため、市立高校に限定させていただきたい。

(会長) アンケートを通じ石巻に住んでもらうというのはどういうことか考えて貰うことは重要であると思うため、是非改善していただきたい。

【基本目標4】

(委員) NO52の女性人材リスト登録者数について、どこの委員会に行っても同じメンバーであるように感じる。うまく活用できていないのであれば、リーダー研修等を活用し新たなリーダーを育成、発掘していくことが必要なのではないか。同様に男性人材リストがあってもいいと思う。

(地域協働課長) 女性リーダーの育成に力を入れていく方向で検討したいと思う。男性人材リストは、難しいと思うが同様に検討したい。

(会長) リストには、組織の代表が掲載されていることが多いか。

(地域協働課長) 人材リストについては受講者が掲載されているが、推薦依頼を各課に出すと組織の代表が来ることが多い傾向がある。

(委員) NO57の保育施設待機児童数について、厚生労働省の基準とは何か。また、待機児童がいるということは、裏を返せば、子どもがたくさんいるということになる。これをプラスに考え、民間保育所等と連携し、待機児童ゼロを目指してほしい。また、働いていない、祖父母と同居でも入れるように配慮してほしい。また、NO60の学校が楽しいと感じている児童生徒の割合について、「何が楽しくて何が楽しくないかを教えてほしい。」というアンケートにしてはどうか。

(子ども保育課長補佐) 待機児童の基準については「申し込んだが入れなかった。」という数である。しかし、現在は潜在的な待機児童という考え方もあり、求職活動をしている場合や育児休暇を取っている場合は含めるという形にしている。また、働けない人への配慮については、現段階で求職中の方については、働いている方から比べると優先度が低くなっている。

(委員) そういう採点(点数化)しない制度になるようお願いしたい。

(子ども保育課長補佐) 子ども・子育て支援新制度の中でも、一億総活躍社会として、働く人を支援するようなこともあることから、その点も加味しながら取組んでいきたい。

(委員) 入所申し込み時に、民間の幼稚園については延長保育もあるというご進言はされているのか。

(子ども保育課長補佐) 保育所を希望されていることから、なかなか言えないところもあるが、最終的にはそういうこともお伝えしている。

(学校教育課) アンケートの中身として、もう少し詳細な内容としているのでご理解願いたい。

(委員) 現場の先生方の意見はどのくらい吸い上げているのか。

(学校教育課) 教員へのアンケートも時期ごとに行っている。

(会長) NO60について、4人に1人は楽しくないと考えているが、今後の対応が検証で留まっている。具体的な取組は何かあるか。

(学校教育課) 子どもの将来の希望、志を高める事業や教師の指導力向上の研修も行っており、これらを通じて、学校が楽しいと感じられるようにしていきたい。

(会長) 多彩な取組を通じながら、不登校の生徒への対応も丁寧に行ってほしい。

(委員) アンケートは不登校の生徒も対象としているのか。

(学校教育課) アンケート期間に出席あるいは家に持って行ってアンケートに回答してもらえれば可能であるが、そうでなければ反映されていない。

(委員) 回収率があるとよい。声なき声というのは非常に重要であると考えているため、それが分かるとよいのではないか。

4 その他

(説明：桂谷主査)

重要業績評価指標(KPI)変更案一覧について(資料4)

(会長) NO48の市内高校生が本市に住み続けたいと思う割合について、KPIが後退しているため難しいとは思いますが、困難を乗り越えてやってほしい。

5 閉会のあいさつ(阿部副会長)

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

(平成28年6月29日現在)

| No. | 氏名 | 所属 | 備考 |
|-----|---------|-------------------------|--------|
| 1 | 安住栄一 | 牡鹿地区住民代表 | 出席 |
| 2 | 阿部紀代子 | コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会 | 副会長 出席 |
| 3 | 阿部 都 | いしのまき農業協同組合 | 欠席 |
| 4 | 荒木裕美 | 特定非営利活動法人ベビースマイル石巻 | 出席 |
| 5 | 大浪 茂 | 河北地区住民代表 | 出席 |
| 6 | 小野寺芳一 | 七十七銀行石巻支店（代理 木村様） | 出席 |
| 7 | 木村美保子 | いしのまきNPOセンター | 出席 |
| 8 | 後藤 宗徳 | 石巻観光協会 | 会長 出席 |
| 9 | 西 條 拓也 | いしのまき農業協同組合 | 出席 |
| 10 | 佐藤清子 | 河南地区住民代表 | 出席 |
| 11 | 佐藤 尚美 | 北上地区住民代表 | 出席 |
| 12 | 品野 光一郎 | 宮城県漁業協同組合 | 欠席 |
| 13 | 庄 子 真 岐 | 石巻専修大学 | 欠席 |
| 14 | 大黒 雅 弘 | 日本労働組合総連合会宮城県連合会石巻地域協議会 | 欠席 |
| 15 | 高橋 真由美 | 雄勝地区住民代表 | 欠席 |
| 16 | 中川 尚 仙 | 石巻商工会議所 | 欠席 |
| 17 | 永澤 貞 代 | 桃生地区住民代表 | 欠席 |
| 18 | 芳賀 信 幸 | 石巻市地域包括ケア推進協議会 | 欠席 |
| 19 | 三浦 トキエ | 石巻市地域婦人団体連絡協議会 | 欠席 |

(氏名の五十音順、敬称略)